



平成 31 年 1 月 1 日現在	
戸数	983
人口	2,377
男	1,193
女	1,184

### 年頭ごあいさつ

内田地区町会連合会長

古幡 進一



新年明けましておめでとう  
ございます。

輝かしい新年をご家族おそろいで迎えのことと心よりお慶び申し上げます。日頃は、町会活動に深いご理解とご協力を頂きまして厚く感謝申し上げます。

昨年は、地球温暖化の影響です。全国的に大変自然災害の多い年でした。特に西日本豪雨災害や北海道の地震、また大型台風襲来により、多くの被害が発生しました。幸い、内田においては大きな被害は無かったものの、内田地区最大のイベントであり、皆さんが大変楽しみにしてい

た大運動会が台風接近で中止になったことは大変残念でした。

内田には3つの国の重要文化財がありますが、そのひとつ、牛伏川階段工（フランス式階段工）が完成100年を迎え、一年を通して色々なイベントを行いました。10月18・19日には完成100周年を祝う記念式典とシンポジウムを行い、国土交通省を始め全国各地から大勢の皆さんに参加を頂き、盛大に開催されました。シンポジウムや講演会では、歴史的にも技術的にも大変高い評価を受けて、砂防関係者の皆さんには世界遺産に匹敵するまで言われていますが、私も実行委員長を仰せつかり、改めて価値の高さを思い知らされた所でした。このフランス式階段工を後世に残していかなければという先人の皆さんの熱意と努力で国の重要文化財に指定され、その後も、「牛伏鉢伏友の会」等の一部の方々に、整備・保

存にご尽力いただいておりますが、地元として大事な宝であるこの砂防施設の整備、保全に組織的に関わっていかねばと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

さて、松本市では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることが出来るように、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の推進をしています。内田地区としても、取り組みを進めています。いま、少子高齢化時代の波は確実に押し寄せています。内田の65歳以上の高齢化率は29・5%となっています。それには、住民同士が「お互い様」の精神で共に支えあうことが大切となりますが、高齢者の見守り、買い物弱者支援、子どもの安全、防災や災害時の助け合いなど、地域で解決しなくてはならない課題が増大しています。町会連合会は、それらの課題に積極的に取り組み、安全で安心して暮らしやすい内田地区にするように努力していきます。

結びに今年も穏やかな一年であると共に皆様方のご健勝とご活躍を祈念します。

### 水野美術館鑑賞と善光寺参拝

秋も深まり北アルプスの頂も白く雪化粧をした11月初め、善光寺参拝と水野美術館鑑賞に参加してきました。

車中での自己紹介の後、仲見世通り散策の某香辛料屋さんでの買物、美術館鑑賞の時間を多めにとの要望があり、多少時間を変更しての行動となりました。

さて、善光寺到着です。ガイドさん案内での境内説明や回廊柱のその後や寺院・仏閣の説明など、知らなかったことが多々あり、特に六地藏のくぐりには感銘を受けました。どこかで機会があったら善光寺の某お店の観光ガイドさんに伺ってみては。

その後、昼食、仲見世散策を経て、今回の最大イベント絵画鑑賞です。水野美術館は、キノコのホクト産業社長の水野氏が、長年かけて蒐集したコレクションをもとに開館した日本画専門の美術館だそうです。今回のメインは、横山大観や川合玉堂の近代日本画の巨匠の作品です。大観作品は、複写ですが子ども時代目にしたことがあり、ちょっと身近に感じられました。特



第五町会 横山 和子

に、四季折々の風景、一つの作品に複数の季節を表した春秋図など、なかなか見ることのできない日本画の巨匠の作品が、長野県で見られることによるこびを感じます。今回は特別展示で、大観の「無我」を見られました。この作品は3枚描き上げたそうです。当館の作品が最後に描いた物といわれているようで、子どもの表情などがふっくらしていて、邪心のない幼子の様子が感じとれました。また入館して最初に見た奥田元宗氏の「秋深涼々」は見えたえがあり、目に飛びこんでくる紅葉の朱色が目に焼きついて今も離れません。一度、見るべきかと思えます。

最後になりますが、善光寺で雑念を落とし、美術館で心に染み渡る感動をいただき、素晴らしい時間を過ごすことができました。感謝です。

### 音の花束コンサート

明善中学校学区内の3地区公民館(内田公民館・松原地区公民館・寿台公民館)では、地域の様々な行事でお世話になった明善中学校の生徒の皆さんへ、音楽を通じて感謝の気持ちとして、本年度8回目を迎えた「音の花束コンサート」が11月30日に明善中学校体育館で開催された。

全校生徒が、市内在住のマ

リンバ奏者・山本令子さんと、ピアノ奏者の同校OBで内田在住の井垣(岩下)里沙さんの高度なテクニクの奏法に見入りながら鑑賞を楽しんだ。

山本さんと井垣さんは「エル・クンバンチェロ」や「熊蜂の飛行」などをアンサンブルで発表した。合奏体験として、代表の生徒4人がウッドブロック、トライアングル、スライドホイッスルを奏でて協演する場面もあった。

内田公民館長 丸山 明良



### しめ縄と ふかし饅頭づくり

12月8日、毎年恒例の、育成会主催しめ縄とふかし饅頭づくりが内田公民館で行われ、参加しました。

今年は、集まった子どもが少なく、指導するスタッフの方が多いという状況でしたが、子どもたちの笑顔に励まされスタートです。

まず、内田農村女性のスタッフとして、ふかし饅頭の生地作りにとりかかりました。中力粉、砂糖、牛乳等を滑らかにするまで良くこねて、ラップをかけ30分ほど寝かせます。

その間にしめ縄づくりに参加しました。指導される方の慣れた手つきを見ながら、同じ様にやるのですが、なかなか上手くいきません。子どもたちも慣れない作業に四苦八苦している様子ですが、楽しそうです。

ふかし饅頭の下準備ができたので、子どもたちに調理室に移動してもらいます。小さい手の上で饅頭の生地を一生懸命のばして、中に入れる具をそつと乗せたら生地で包みます。皆上手にできました。10分ほど蒸して完成です。

最後に皆で、できあがったふかし饅頭をいただきます。



第二町会 中畷 弘美



### ニュースポーツ体験会

12月2日(日)、ニュースポーツ体験会が開催されました。スポーツ推進員の指導のもと、ワンバウンドふらばーのバレー、キャッチング・ザ・スティック、バスケットピンポン、ボッチャの4種目を体験しました。

子どもから大人まで、皆さん熱中して取り組んでいただき、大いに盛り上がりました。



### つれづれ編集記

真正正銘、「平成最後」の年が始まった。

毎年12月に発表される今年の漢字。昨年は「災」に決まった。過去を振り返ってみると、第1回が平成7年「震」。それ以降は「金」が3度と最も多く、来年もきっとそうなるであろう。その他には、毒や戦・偽・倒など、その年を象徴しているのだから、明るい文字・話題が少ない。

それと対象的に長野県知事が選んだ漢字は「躍」。昨年の県内のスポーツ界は、まさに活躍の一年であり躍動の一年だったと思う。特に中信地区においては、冬季オリンピック金メダルを皮切りに御嶽海の優勝や松本山雅の優勝など本当に楽しませてもらえた一年であった。きつと今年も大関昇進やJ1残留など、楽しませてもらえるだろう。それと同時に夏の甲子園もぜひ中信地区の高校が出場してほしい。やはり地元高校が会場していれば、それだけでとても明るい話題になる。

そして年末には、新しい元号による「〇〇最初」の今年の漢字が明るい未来ある一文字になっている事を期待したい。

第五町会 赤羽 勝彦